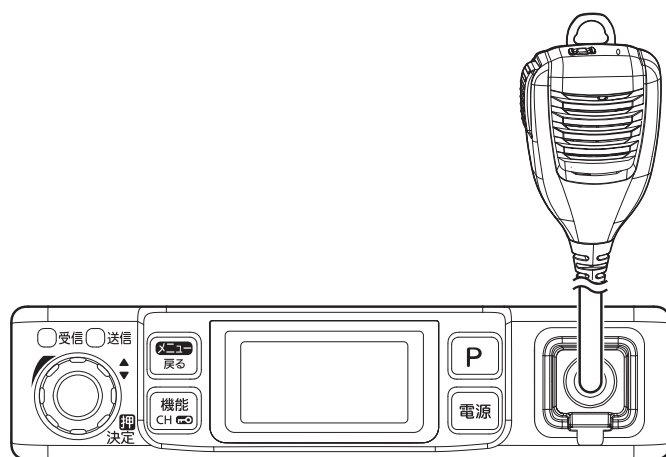


VHF/UHF無線電話装置
IC-DV6010S
シリーズ
IC-DU6010S
シリーズ



この無線機をご使用の際には、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

防塵/防水性能について

マイクロホンを無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎防水スピーカーマイクロホン(HM-223)、または防水コマンドマイク(HM-224)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎蛇口から水や湯を直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイクロホン(HM-223)、または防水コマンドマイク(HM-224)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(9章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

はじめに

車両に取り付けるときのご注意

- ◎自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎アンテナの同軸ケーブルからも微小ですが電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
 - ：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - その他：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎本製品を操作中、自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼしていることがわかった時点で、本製品の電源を切り、DC電源ケーブルを本製品から抜いてください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎自動車に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

もくじ

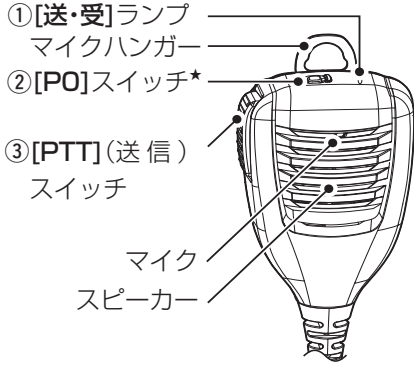
はじめに	i	7.そのほかの機能について	7-1
本製品の概要について	i	■ モニター機能	7-1
電波法上のご注意	i	■ キーロック機能	7-1
通信方式について	i	■ 強制終話機能	7-1
登録商標/著作権について	i	■ T102方式受信機能	7-1
付属品について	i	■ スキャン機能	7-1
取扱説明書の内容について	i	■ 呼び出し音機能	7-1
取り扱い上のご注意	ii	■ 呼び出しメロディー機能	7-1
音声圧縮(符号化)方式について	ii	■ 最小音量設定機能	7-1
防塵/防水性能について	ii	■ マイクハンガー機能	7-1
別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ GPSデータ通信	7-2
IP表記について	ii	■ ステータス通信	7-2
車両に取り付けるときのご注意	iii	■ ショートメッセージ通信	7-2
電磁ノイズについて	iii	■ ベアラモード通信	7-3
自動車運転時のご注意	iii	■ ロングデータモード通信	7-3
放熱について	iii		
1.各部の名称と機能	1-1	8.設定モード	8-1
■ 前面部	1-1	■ 設定項目一覧	8-1
■ 表示部(通話チャンネル表示)	1-2	■ 設定モードに移行するには	8-1
■ 後面部	1-3	■ 設定のしかた	8-2
		■ 設定項目について	8-2
2.通話のしかた	2-1	9.別売品とその使いかた	9-1
■ 通話するときのアドバイス	2-4	■ 別売品についてのご注意	9-1
3.ユーザーコード(UC)によるグループ通話のしかた	3-1	■ ホームページに掲載	9-1
■ ユーザーコードを変更するには	3-2	■ UX-249(GPSユニット)使用時の注意事項	9-1
4.選択呼び出しによる通話	4-1	■ 別売品一覧表	9-1
■ 呼び出しかたの種類について	4-1	■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	9-2
■ 呼び出しの種類を変更するには	4-3		
5.緊急機能について	5-1	10.保守について	10-1
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-1	■ 日常の保守と点検について	10-1
6.メニュー画面について	6-1	■ ヒューズの交換について	10-1
■ 項目一覧	6-1	■ 従来製品との相互使用について	10-1
■ メニュー画面を表示するには	6-1	■ 故障かな?と思ったら	10-2
■ 設定値を変更するには	6-1	■ アフターサービスについて	10-3
■ 項目について	6-2		
		さくいん	i-1

1

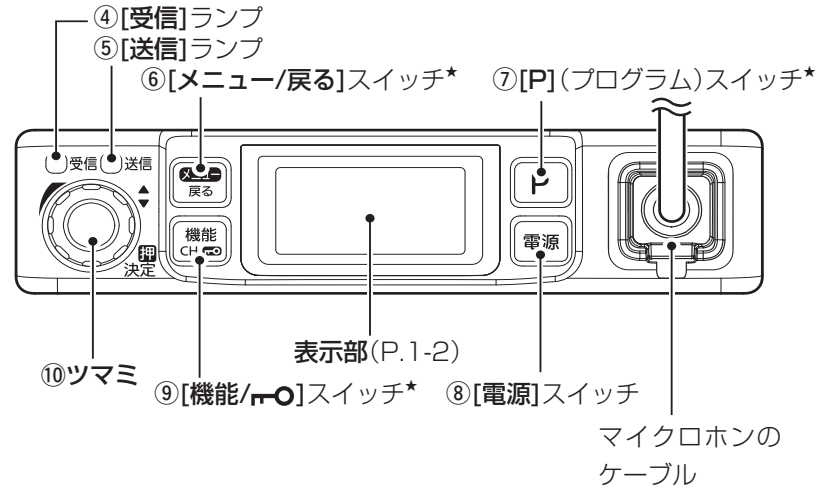
各部の名称と機能

■ 前面部

【スピーカーマイクロホン】



【無線機】



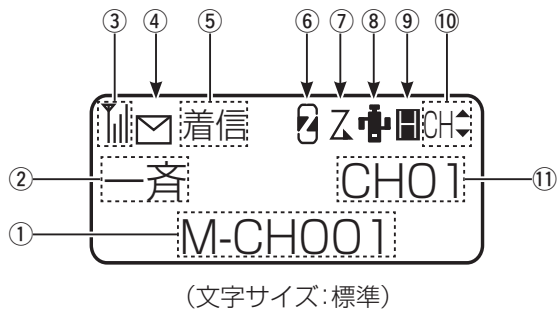
★印のスイッチに割り当てられている機能や長押し時間は、お買い上げ時の設定によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

①	[送・受]ランプ ○電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。 ○電波を送信しているあいだは赤色に点灯します。
②	[PO]スイッチ* [PTT] (送信) スイッチ ③ 押ししているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。
④	[受信]ランプ 電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。
⑤	[送信]ランプ 電波を送信しているあいだは赤色に点灯します。
⑥	[メニュー/戻る]スイッチ* 【通話チャンネル表示中】 ○長く(約1秒)押しすと、メニュー画面を表示します。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 ○短く押しすと、前の画面に戻ります。 ○メニュー画面表示中に長く(約1秒)押しすと、通話チャンネル表示に戻ります。

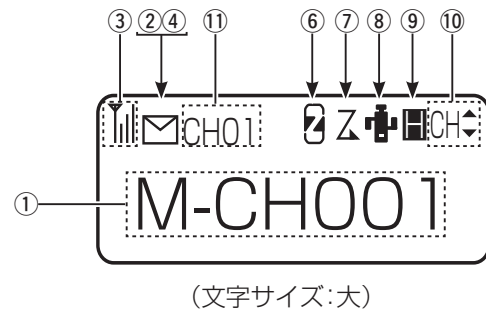
⑦	[P] (プログラム) スイッチ* ○着信中、または終話判定中に長く(約1秒)押しすと、通話を強制的に終了します。
⑧	[電源]スイッチ 電源を「入」/「切」します。
⑨	[機能/ON]スイッチ* 【通話チャンネル表示中】 ○短く押しすごとに、ツマミを回したときの動作を切り替えます。 ○長く(約1秒)押しすごとに、キーロック機能を「ON」/「OFF」できます。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 ○押しすと、選択した項目や設定値を確定します。
⑩	ツマミ 【通話チャンネル表示中】 ○ツマミを回すと、音量、または通話チャンネルが切り替わります。 【メニュー画面、設定モード画面表示中】 ○ツマミを回すと、項目や設定値を選択します。 ○押しすと、選択した項目や設定値を確定します。

1 各部の名称と機能

■ 表示部(通話チャンネル表示)



(文字サイズ:標準)



(文字サイズ:大)

※文字サイズは設定モード(P.8-3)から変更できます。

①通話チャンネル表示

通話チャンネル番号が表示されます。

※お買い上げの販売店で通話チャンネルに名称が設定されているときは、通話チャンネル番号表示の代わりに設定された名称が表示されます。

②呼出種別表示

選択呼び出し機能で運用中、[一斉]/[グループ]/[個別]の各呼出種別が表示されます。

アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択した場合は[アナログ]が表示されます。

※文字サイズを「大」に設定したときは、未読メッセージ(④)と同じ場所に、[一斉]/[グ](グループ)/[個](個別)/[A](アナログ)が表示されます。

※文字サイズを「大」に設定したときに未読メッセージがある場合、呼出種別は表示されません。

③電界強度表示

受信している電波の強さ(目安)が、右記の3段階で表示されます。

[]は、常時点灯されます。



④ 未読メッセージ

未読メッセージがあるときに表示されます。

⑤呼び出し状態表示

[送信]/[着信]/[通話]の各呼び出し状態が表示されます。

⑥ 秘話機能

秘話機能が設定されているときに表示されます。

⑦ Z(スキャン機能)

スキャン機能(P.7-1)の動作中、またはポーズ中に表示されます。

⑧ GPS状態表示

GPSの状態が表示されます。

GPSユニット(別売品:UX-249)を接続していてGPS衛星からの信号を受信(測位)していない状態

GPSユニットを接続していてGPS衛星からの信号を受信(測位)した状態

※GPS衛星からの信号を受信(測位)していない場合、ステータス着歴(P.6-3)、ショートメッセージ着歴(P.6-4)、音声着歴(P.6-4)の受信時刻には、「--:--」が表示されます。

⑨ H/L/R

各通話チャンネルの送信出力設定が表示されます。

H: High

L: Low

R: 受信専用

⑩ CH(チャンネル操作モード)

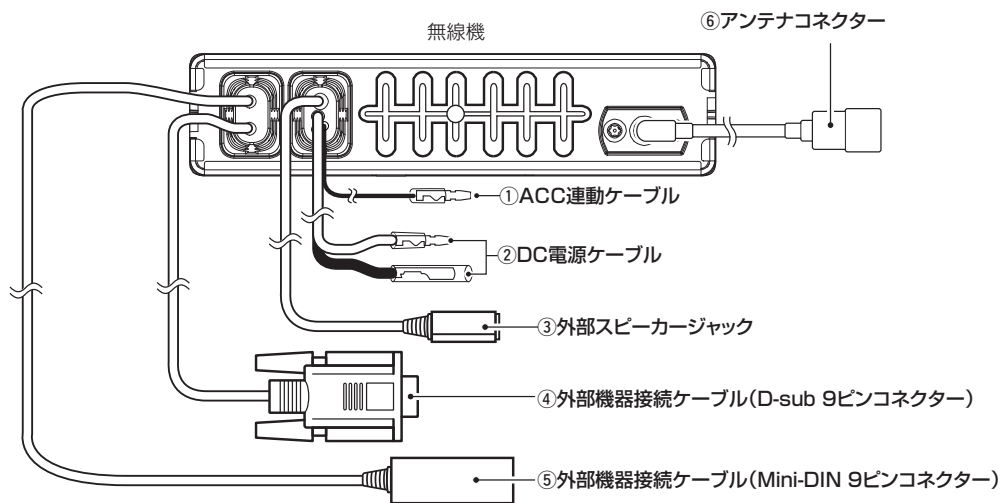
無線機本体のツマミの機能が、チャンネル操作モードのときに表示されます。

⑪周波数チャンネル表示

周波数チャンネル番号が表示されます。

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① ACC連動ケーブル(青色)

自動車の鍵(エンジンスイッチ)の操作に連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようにするときは、鍵をACC(アクセサリ)の位置で12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインと接続します。

※ ACCと連動させないときは、接続の必要はありません。

ほかの機器の端子などに接触しないように、ACC連動ケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※ 入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。

※ 卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P.9-1)

【減電圧、過電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「減電圧」、高い場合は「過電圧」と表示され、「ピー、ピー、ピー」という音が鳴ります。

動作範囲の電圧に戻ると、通常の表示に戻り、操作できます。通常の表示に戻った場合でも、「過電圧」のときは、故障の原因となりますので、お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

※ DC電源電圧が低い場合、電源が切れることがあります。

③ 外部スピーカージャック(φ3.5mm/4Ω/モノラル)

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカーと接続します。

※ デスクトップマイクロホン(別売品:SM-28)を使用するときは、外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を接続してください。

④ 外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピンコネクター)

ロングデータモード通信、ベアラモード通信を使用してデータ通信をする外部機器と接続します。

※ データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑤ 外部機器接続ケーブル(Mini-DIN 9ピンコネクター)

GPSユニット(別売品:UX-249)と接続します。

※ 将来的な機能拡張用にも使用します。

使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑥ アンテナコネクター(M型:50Ω)

アンテナと接続します。

2

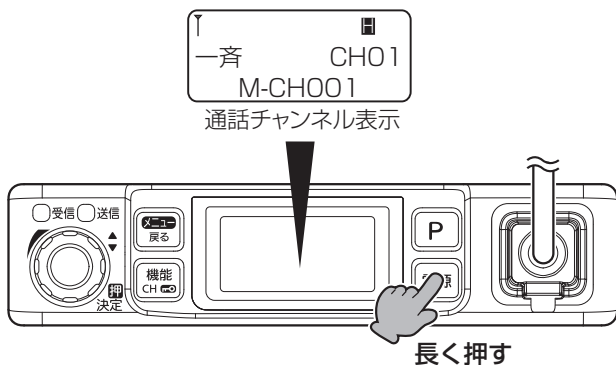
通話のしかた

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの基本的な通話のしかたについて説明します。

1 電源を入れる

【電源】スイッチを長く(約1秒)押します。

※電源を切るときは、【電源】スイッチを長く(約3秒)押します。



【起動コメントについて】

起動コメントが設定されているときは、電源投入直後に「IC-DV6010S1」などの起動コメントが表示されます。

IC-DV6010S1
起動コメント例

ご参考

起動コメントの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【自局番号表示について】

自局番号表示機能が設定されているときは、「IC-DV6010S1」などの起動コメントが表示されたあと、自局の個別番号が表示されます。

【パスワード?と表示されたときは】

起動パスワード機能が設定されていると、電源を入れたときに「パスワード?」を表示します。

この場合、本製品を操作するには、あらかじめ設定されたパスワードの入力が必要です。

あらかじめ設定された順番どおりに、本製品のスイッチを押すと、パスワードが解除されます。

パスワードを間違えると、「ブツ」とビープ音が鳴ります。パスワード入力ミスにより再入力できる回数は、あらかじめ決定されています。

再入力可能回数を超えると、「端末ロック」が表示され、電源を切る以外の操作はできなくなります。

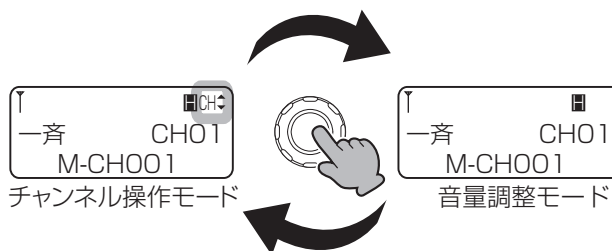
※パスワード入力にコマンドマイクのスイッチが設定されている場合、無線機本体のスイッチを使用しても、正しいパスワードが入力できません。

※「端末ロック」の表示を解除するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

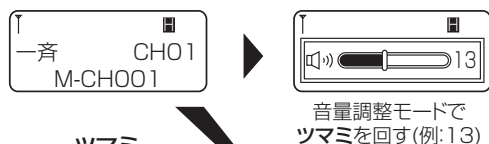
2 音量を調整する

1. 音量調整モードにする。

※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。



2. ツマミを回す。(調整範囲:0~32)



2. 回す

1. 押す

【音量を確認するには】

アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択し、モニター機能を設定したスイッチを押します。

• 【受信】ランプと【送・受】ランプが緑色に点灯し、「ザーツ」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択し、モニター機能を設定したスイッチを押しても、音量は確認できません。

受信中に相手の音声聞きやすい音量に調整してください。

ご参考

音量の最小値を制限できます。(例:10)

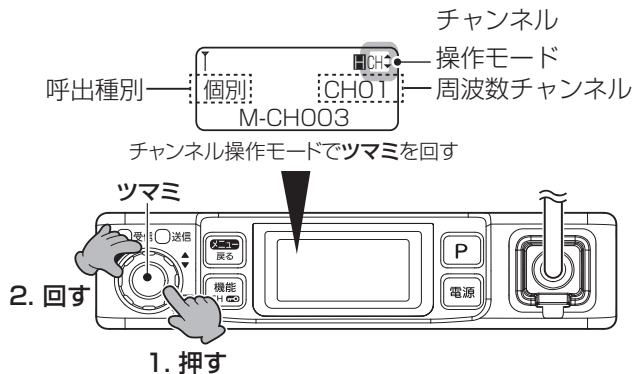
音量の最小値を制限することで、不用意に無線機のツマミを回したとき、受信音やビープ音が出なくなるのを防止できます。

最小値を制限する場合は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

2 通話のしかた

3 通話チャンネルを合わせる

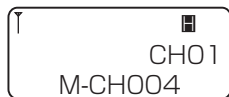
1. チャンネル操作モードにする。
※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。
 2. ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネル(例: M-CH003)に合わせます。
- ※通話チャンネルごとに、呼び出しの種類と周波数チャンネルがあらかじめ設定されています。



◎ユーザーコードによる呼び出し

通話チャンネル番号と、周波数チャンネル番号が表示されます。

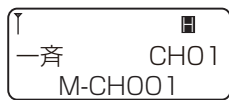
詳しくは、3-1ページをご覧ください。



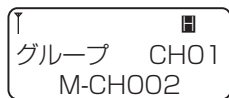
◎選択呼び出し

呼び出しの種類、通話チャンネル番号、周波数チャンネル番号が表示されます。

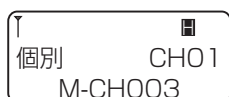
詳しくは、4-1ページをご覧ください。



一斉呼び出し



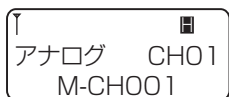
グループ呼び出し



個別呼び出し

◎アナログ通信

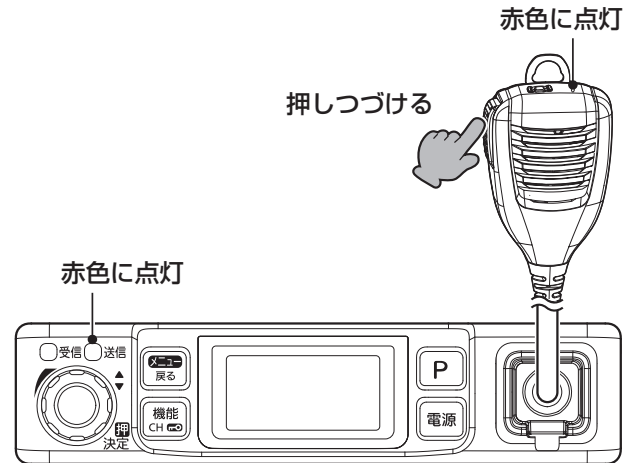
「アナログ」、通話チャンネル番号、周波数チャンネル番号が表示されます。



4 呼び出しをする

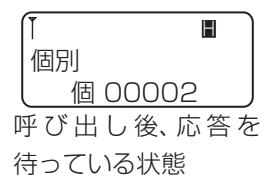
[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだ、[送信] ランプと[送・受] ランプが赤色に点灯します。



【デジタル通信で繰り返し呼び出しをするときは】

相手局から応答がない場合、再度 [PTT] (送信) スイッチを押すと、繰り返し呼び出しできます。



【相手局が通信圏内かどうかを確認するには】

通信する双方の無線機にアンサーバック機能が設定されている場合、個別呼び出しの相手局番号を選択した状態で、[PTT] (送信) スイッチを短く押すと、相手局が通信圏内かどうか確認できます。

- 相手局が通信圏内にいる場合は、[送信] ランプと[送・受] ランプが赤色に1回点滅したあと、「ピッ」と鳴り、[受信] ランプと[送・受] ランプが緑色に1回点滅します。通信圏外など、相手に電波が届かない場合は、終話して、操作前の表示に戻ります。

※アンサーバック機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※アンサーバック機能は、通信方式が「T102」に設定されている無線機、およびアナログ通信で使用する通話チャンネルでは使用できません。

2 通話のしかた

5 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、着信表示状態で[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって応答します。

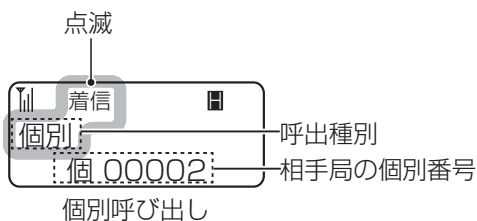
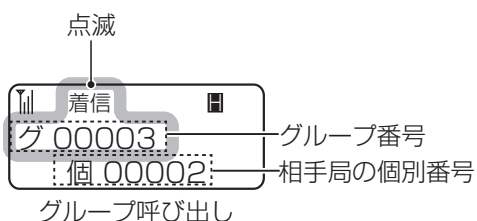
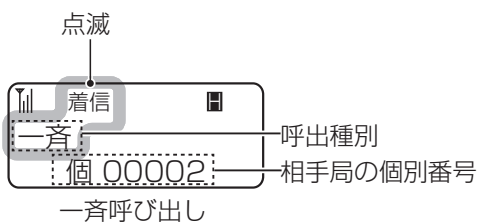
•呼び出しを受けたときは、[受信]ランプと[送・受]ランプが緑色に点灯します。

◎ユーザーコードによる呼び出しを受けたときの着信表示
相手局のユーザーコードが表示されて、「着信」が点滅します。



◎選択呼び出しを受けたときの着信表示

呼び出しの種類、またはグループ番号と、相手局の個別番号が表示されて、「着信」が点滅します。



◎アナログ通信方式で呼び出しを受けたとき

呼び出しを受けても、表示される画面は変わりません。

ご参考:番号表示の代わりに名称を表示させるには

通話チャンネル番号、自局番号、相手のユーザーコード、個別番号、グループ番号の代わりに、右図のような名称表示をご使用になる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

漢字表示例

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、マイクと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、めいりょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

着信中の送信制限機能について

送信しようとする通話チャンネルで、先に通話している局が存在した場合、[PTT](送信)スイッチを押しても、「ブーブー」と鳴って、送信を禁止します。

送信できない場合は、他局の通話が終わってから送信しなおしてください。

※設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

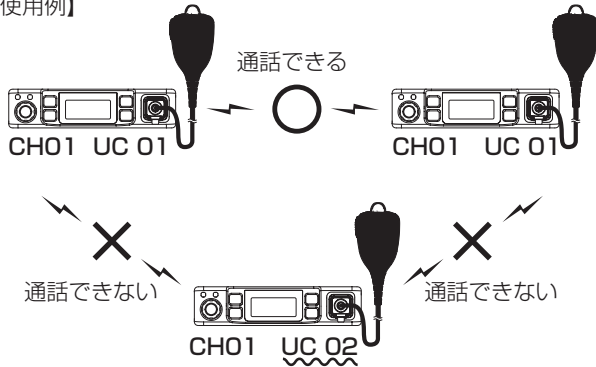
3

ユーザーコード(UC)によるグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定すると、通話グループが構成できます。

周波数チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※説明のため、送信ユーザーコードと受信ユーザーコードを同じ設定にしたときの例を使用しています。

送信側の送信ユーザーコードと受信側の受信ユーザーコードが異なる場合、通話できません。

送信と受信で異なるユーザーコードを設定することで、多様な通話グループを構成することができます。

※秘話機能や選択呼び出し機能とも併用できます。

※アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときは、ユーザーコードによる呼び出しはできません。

※通信方式が「T102」の無線機は、「B54」の無線機と通信できません。

※通信方式が「B54」の無線機は、T102方式受信機能が設定されているときは、「T102」の無線機から受信できます。

【周波数チャンネルの設定について】

◎使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【ユーザーコードの設定について】

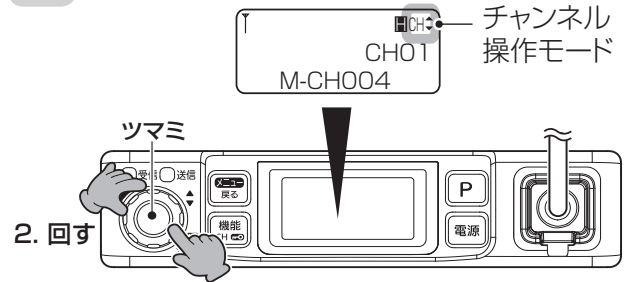
◎使用するユーザーコードは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードが通話相手と同じユーザーコードであることを確認してください。

◎一時的にユーザーコードを変更する場合の操作については、「■ ユーザーコードを変更するには」(P.3-2)をご覧ください。

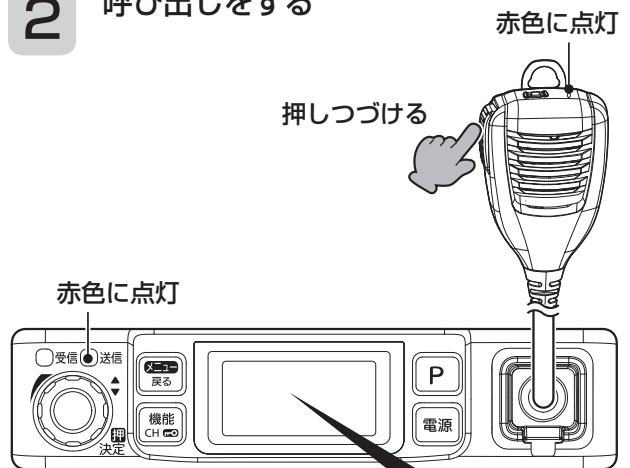
通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前のユーザーコードに戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる



1. 押す
チャンネル操作モードにする。
※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。
2. 回す
ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

2 呼び出しをする



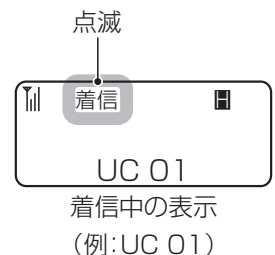
[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだ、[送信] ランプと [送・受] ランプが赤色に点灯します。

3 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、着信表示状態で [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって応答します。

- 呼び出しを受けたときは、[受信] ランプと [送・受] ランプが緑色に点灯します。



3 ユーザーコード (UC) によるグループ通話のしかた

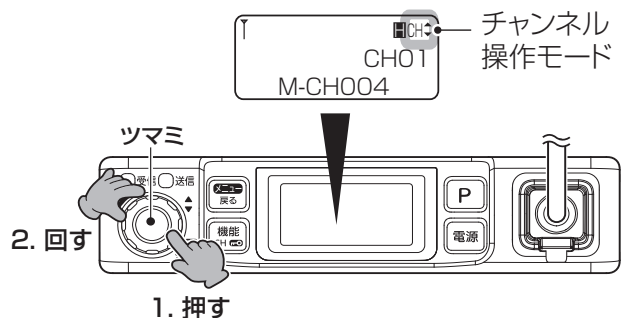
■ ユーザーコードを変更するには

ユーザーコードを変更する手順を説明します。

※使用できるユーザーコードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

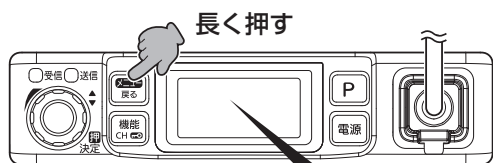
※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前のユーザーコードに戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる



1. チャンネル操作モードにする。
※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。
2. ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手とは、通話できません。(P.3-1)

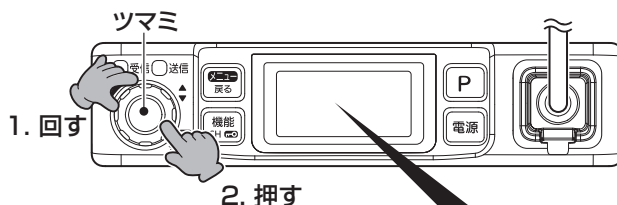
2 メニュー画面を表示する



[メニュー/戻る]スイッチを長く(約1秒)押しします。
•メニュー画面が表示されます。



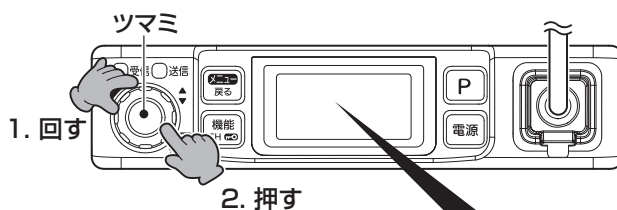
3 ユーザーコード画面を表示する



1. ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。
2. ツマミを押します。
•ユーザーコード画面が表示されます。



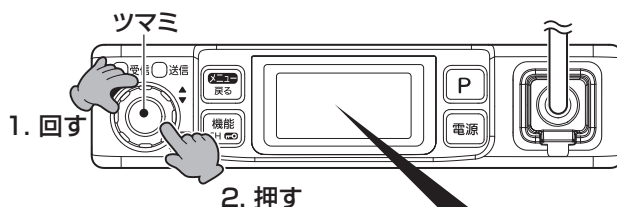
4 設定するユーザーコードを選択する



1. ツマミを回して、設定するユーザーコードを選択します。
2. ツマミを押します。



5 ユーザーコードを設定する



1. ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。
2. ツマミを押します。
•通話チャンネル表示に戻ります。

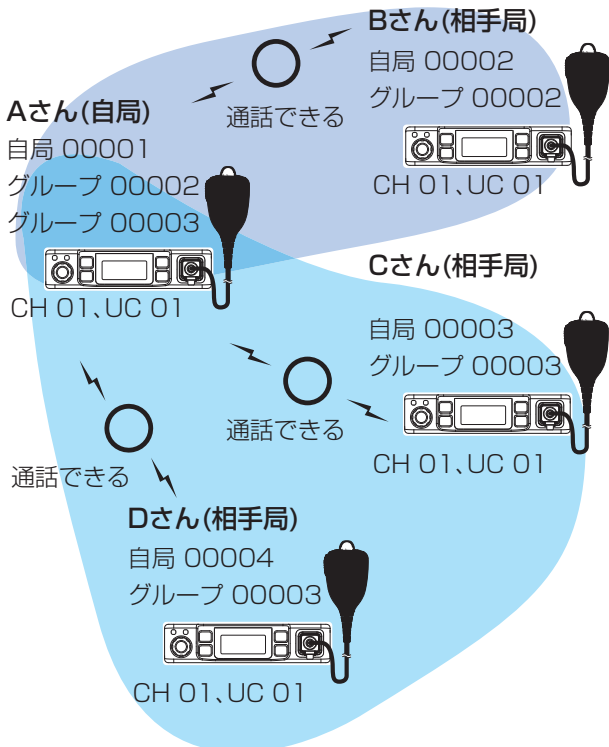


■ 呼び出しのかたの種類について

選択呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※説明のため、送信ユーザーコードと受信ユーザーコードを同じ設定にしたときの例を使用しています。

ユーザーコードについては「3 ユーザーコード(UC)によるグループ通話のしかた」をご覧ください。

※選択呼び出しを使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

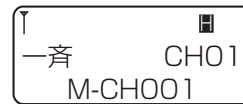
※グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、着信グループの設定が必要です。相手側の着信グループに含まれていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

※アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときは、選択呼び出しはできません。

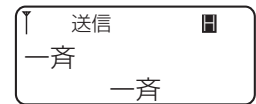
※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、選択呼び出しはできません。

選択呼び出しには、次の3種類の方法があります。

◎一斉呼び出し



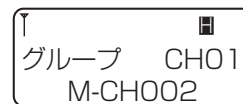
通話チャンネル表示



送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じ、すべてのグループの相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎グループ呼び出し



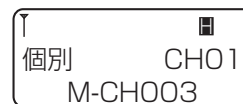
通話チャンネル表示



送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じで、着信グループに設定されたグループ番号(使用例:グループ 00003)に所属するすべての相手局(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

◎個別呼び出し



通話チャンネル表示

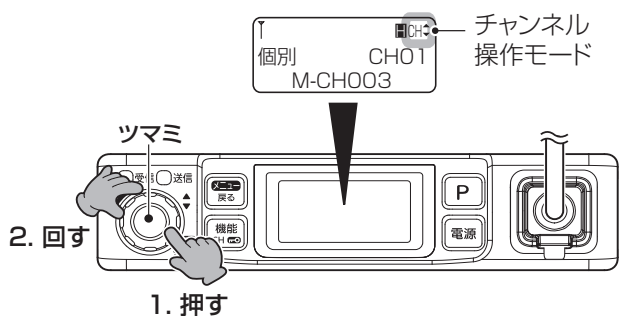


送信中の表示

周波数チャンネル(使用例:CH 01)とユーザーコード(使用例:UC 01)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:00002)を指定して呼び出します。

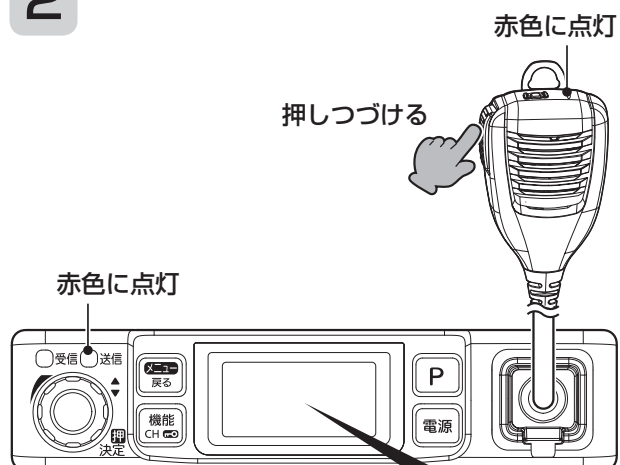
4 選択呼び出しによる通話

1 通話チャンネルを合わせる



1. チャンネル操作モードにする。
※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。
2. ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手とは、通話できません。(P.3-1)

2 呼び出しをする



[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだ、[送信] ランプと[送・受] ランプが赤色に点灯します。

送信
個別
個 00002

送信中の表示
(例: 個別呼び出し)

3 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、着信表示状態で[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって応答します。

- 呼び出しを受けたときは、[受信] ランプと[送・受] ランプが緑色に点灯します。

点滅
着信
個別
個 00002

着信中の表示
(例: 個別呼び出し)

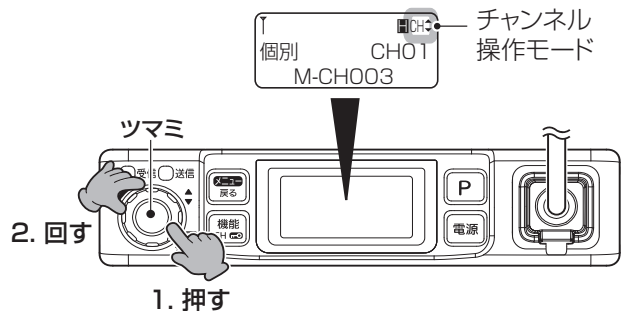
4 選択呼び出しによる通話

■ 呼び出しの種類を変更するには

呼び出しの種類を変更する手順を説明します。

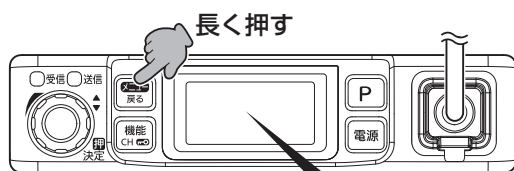
※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の呼び出しの種類に戻ります。

1 通話チャンネルを合わせる



1. チャンネル操作モードにする。
※ツマミを押すごとに、チャンネル操作モードと音量調整モードが切り替わります。
2. ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手とは、通話できません。(P.3-1)

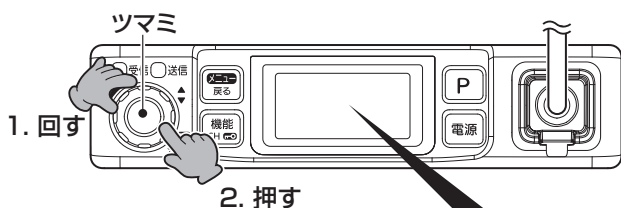
2 メニュー画面を表示する



- [メニュー/戻る]スイッチを長く(約1秒)押します。
•メニュー画面が表示されます。



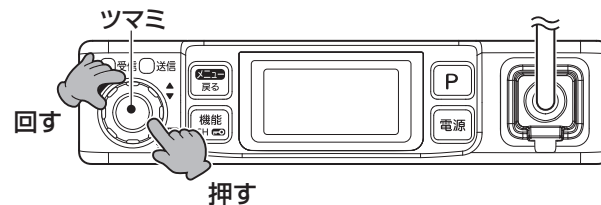
3 音声宛先を選択する



1. ツマミを回して、「音声宛先」を選択します。
2. ツマミを押します。

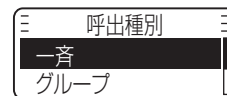


4 呼出種別を選択する



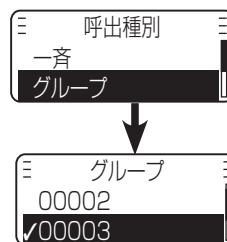
▶一斉に呼び出すときは

1. ツマミを回して、「一斉」を選択します。
2. ツマミを押します。
•通話チャンネル表示に戻ります。



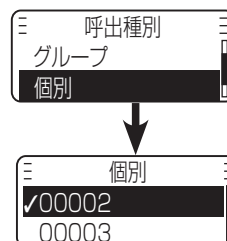
▶グループを呼び出すときは

1. ツマミを回して、「グループ」を選択します。
2. ツマミを押します。
3. ツマミを回して、グループ番号を選択します。
4. ツマミを押します。
•通話チャンネル表示に戻ります。



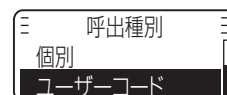
▶1局を呼び出すときは

1. ツマミを回して、「個別」を選択します。
2. ツマミを押します。
3. ツマミを回して、個別番号を選択します。
4. ツマミを押します。
•通話チャンネル表示に戻ります。



▶選択呼び出しを使用しないときは

1. ツマミを回して、「ユーザーコード」を選択します。
2. ツマミを押します。
•通話チャンネル表示に戻ります。



■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、指定した通話チャンネルに設定されている局に、緊急信号を送出して相手に「緊急」表示と警告音で通知します。

※設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、緊急呼び出し機能を使用できません。

※アナログ通信で使用する通話チャンネルでは、緊急呼び出し機能を使用できません。

△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

本製品に外部スピーカー、またはスピーカー内蔵の外部電源を取り付けて、緊急呼び出し機能を使用する場合は、警告音の音量とツマミが連動するように設定されることをおすすめします。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※スキャン機能(P.7-1)の動作中は、緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

スピーカーマイクロホン、または無線機本体のスイッチに、緊急呼び出し機能を設定してください。

設定されていないときは、緊急呼び出しができません。

※緊急呼び出しによる送信ができないように設定された通話チャンネルでは、緊急機能を設定したスイッチを押しつづけても送信できません。

※あらかじめ設定した通話チャンネルにだけ、緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、【P】(プログラム)スイッチの操作による強制終話(P.7-1)ができません。

下記のような場合、通知できなかつたり、通知できても警告音が鳴らなかつたりすることがあります。

○警告音が音量調整と連動して変化するように設定されている場合

○警告音を鳴らさない設定がされている場合

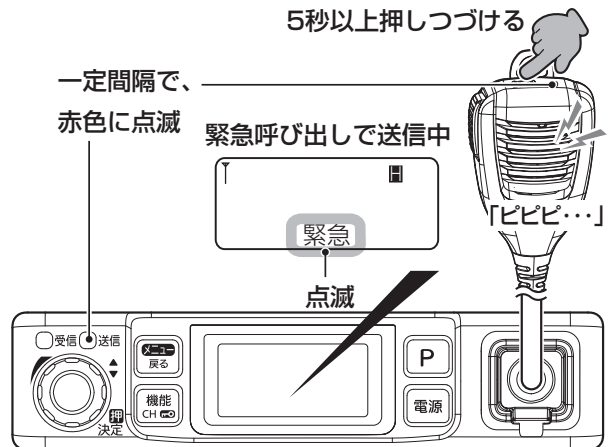
○電波状況の悪化により電波が届かない場合

○通話チャンネル表示以外の画面で、緊急呼び出し機能が設定されたスイッチを長く(5秒以上)押した場合

【緊急呼び出しのしかた】

1. 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
2. 「緊急」と表示されるまで、緊急機能が設定されたスイッチを長く(5秒以上)押します。
 - 警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【送信】ランプと【送・受】ランプが赤色に点滅します。

【例：【P0】スイッチに緊急機能を設定したとき】



3. 「緊急」表示が点滅した状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
 - 応答があると、「緊急」表示の点滅が停止して、【受信】ランプと【送・受】ランプが緑色に点灯します。
 4. 通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。
 - ※終話後、緊急呼び出し機能の動作を再開することもできます。
- 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※緊急呼び出し中に表示される画面を、緊急呼び出しとわかる表示に切り替えずに、呼び出しすることもできます。

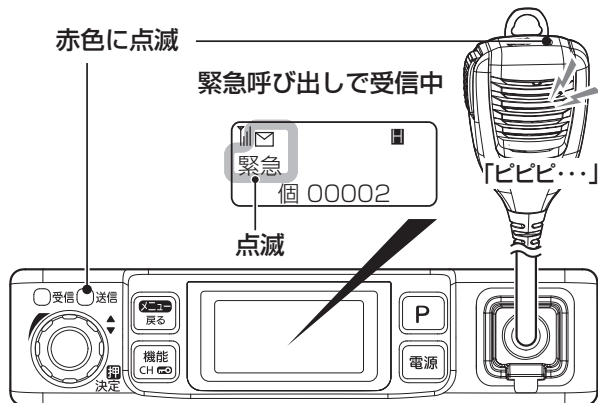
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

5 緊急機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)(つづき)

【緊急呼び出しを受けたときは】

1. **【受信】ランプ**と**【送・受】ランプ**が緑色に1回点滅したあと、警告音が「ピピピ…」と鳴って、**【送信】ランプ**と**【送・受】ランプ**が赤色に点滅します。
また、「緊急」表示が点滅し、「緊急相手局番号」を表示します。
 - ステータスを受信したときは、**ツマミ**を押すと、内容が表示されます。



2. **【PTT】(送信)スイッチ**を押して、応答します。
 - 警告音が停止します。
3. 通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。

表示される項目は、お買い上げ時の設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 項目一覧

下記の項目が表示されます。

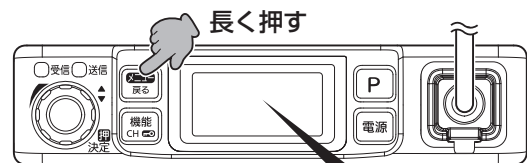
項目名	参照
音声宛先 ^{★1★3}	P.6-2
メッセージ通信 ^{★1★3}	P.6-2
ステータス通信 ^{★1★3}	P.6-2
ショートメッセージ通信 ^{★1★3}	P.6-3
履歴 ^{★3}	P.6-3
ステータス着歴 ^{★3}	P.6-3
ショートメッセージ着歴 ^{★3}	P.6-4
音声着歴 ^{★3}	P.6-4
ユーザーコード ^{★1}	P.6-5
受信 UC ^{★1}	P.6-5
送信 UC ^{★1}	P.6-5
送受信UC ^{★1}	P.6-5
秘話 ^{★1★3}	P.6-5
送信出力	P.6-5
スキャン ^{★1}	P.6-6
マイクゲイン	P.6-6
表示設定	P.6-6
本体LCD輝度	P.6-6
ノイズスケルチ ^{★2}	P.6-6

★1 デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

★2 アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、表示されます。

★3 通信方式が「B54」に設定されている無線機だけ、表示されます。

■ メニュー画面を表示するには 【操作のしかた】

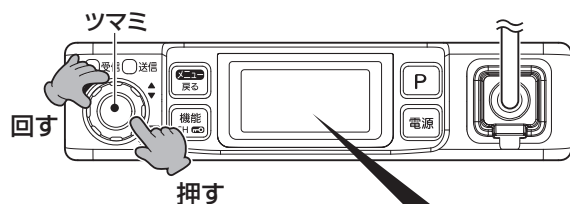


【メニュー/戻る】スイッチを長く(約1秒)押します。

•メニュー画面が表示されます。



■ 設定値を変更するには 【操作のしかた】



1. ツマミを回して、設定したい項目を選択します。

2. ツマミを押します。

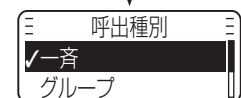
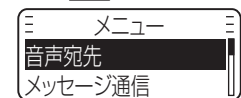
3. 手順1と手順2を繰り返して、設定したい項目を選択します。

4. ツマミを回して、設定値を選択します。

5. ツマミを押します。

※【メニュー/戻る】スイッチを短く押すと、1つ前の画面に戻ります。

【メニュー/戻る】スイッチを長く(約1秒)押すと、通話チャンネル表示に戻ります。



6 メニュー画面について

■ 項目について

音声宛先



選択した通話チャンネルの音声通信の宛先を一時的に変更します。

- 一斉 : 周波数チャンネルとユーザーコードが同じ、すべてのグループを一斉に呼び出す
- グループ : 周波数チャンネルとユーザーコードとグループ番号が同じ相手局を、指定して呼び出す
- 個別 : 周波数チャンネルとユーザーコードが同じ相手局の、自局番号を指定して呼び出す
- ユーザーコード : 選択呼び出し(4章)を使用せず、周波数チャンネルとユーザーコードが同じ相手呼び出す

※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

メッセージ通信



あらかじめ設定されたメッセージを送信できます。

ステータス通信とショートメッセージ通信(P.6-3)があります。

◇ステータス通信

ステータスを送信します。

ステータスには、全角12文字(半角24文字)以内の内容が、あらかじめ登録されています。

※ステータスの登録は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

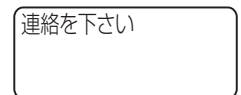
※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、ステータスを送信できません。(P.3-1)

【ステータスを送信するには】

1. ステータス通信画面で、**ツマミ**を回して送信するステータスを選択し、**ツマミ**を押します。



2. 選択したステータスの内容が表示されるので、**ツマミ**を押します。



※**ツマミ**を回すと、表示をスクロールできます。

3. **ツマミ**を回して、呼出種別を選択し、**ツマミ**を押します。

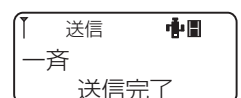
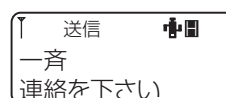


4. 手順3で「個別」、または「グループ」を選択した場合は、**ツマミ**を回して個別番号、またはグループ番号を選択し、**ツマミ**を押します。



•手順2で選択したステータスが送信されます。

赤色に点灯



※受信したステータスの確認のしかたは、「履歴」項目の「◇ステータス着歴」(P.6-3)をご覧ください。

6 メニュー画面について

■ 項目について

メッセージ通信(つづき)


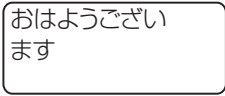


◇ショートメッセージ通信

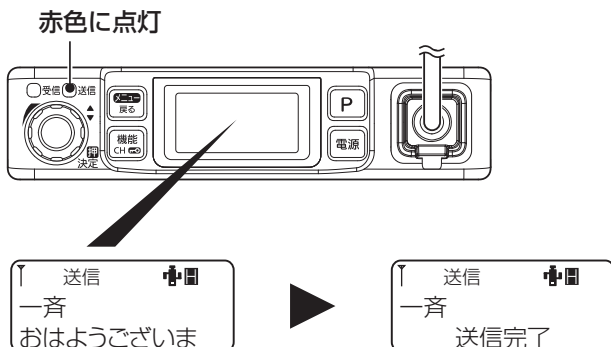
あらかじめ登録された全角50文字(半角100文字)以内のショートメッセージを送信します。

※ショートメッセージの登録は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、ショートメッセージを送信できません。(P.3-1)

【ショートメッセージを送信するには】

1. ショートメッセージ通信画面で、**ツマミ**を回して送信するショートメッセージを選択し、**ツマミ**を押します。
2. 選択したショートメッセージの内容が表示されるので、**ツマミ**を押します。
※**ツマミ**を回すと、表示をスクロールできます。
3. **ツマミ**を回して呼出種別を選択し、**ツマミ**を押します。
4. 手順3で「個別」、または「グループ」を選択した場合は、**ツマミ**を回して個別番号、またはグループ番号を選択し、**ツマミ**を押します。
•手順2で選択したショートメッセージが送信されます。



※受信したショートメッセージの確認のしかたは、「履歴」項目の「◇ ショートメッセージ着歴」(P.6-4)をご覧ください。

履歴



ステータスの着信履歴、ショートメッセージの着信履歴(P.6-4)、音声着信履歴(P.6-4)を確認できます。

◇ステータス着歴

ステータスを1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ステータスの内容を表示します。


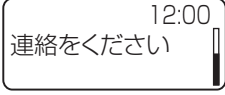
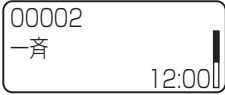
※ステータスは、30件まで記憶できます。

30件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切ると、着信履歴が消去されます。

※ステータスを受信したとき、GPSユニット(別売品:UX-249)を接続していなかった場合、または接続していてもGPS衛星からの信号を受信(測位)できなかった場合は、受信時刻は表示されません。

【表示のしかた】

1. ステータス着歴一覧画面で、**ツマミ**を回して表示する着信履歴を選択し、**ツマミ**を押します。
※呼出種別に関わらず、ステータス着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。
※未読のステータスには「☐」、既読のステータスには「☑」を表示します。
2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ステータスの内容が表示されます。
•**ツマミ**を回すと、表示をスクロールできます。

6 メニュー画面について

■ 項目について

履歴(つづき)

◇ショートメッセージ着歴

ショートメッセージを1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ショートメッセージの内容を表示します。

※ショートメッセージは、30件まで記憶できます。

30件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切ると、着信履歴が消去されます。

※ショートメッセージを受信したとき、GPSユニット(別売品:UX-249)を接続していなかった場合、または接続していてもGPS衛星からの信号を受信(測位)できなかった場合は、受信時刻は表示されません。

【表示のしかた】

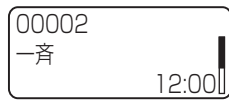
1. ショートメッセージ着歴一覧画面で、**ツマミ**を回し表示する着信履歴を選択し、**ツマミ**を押します。



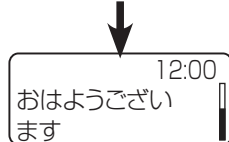
※呼出種別に関わらず、ショートメッセージ着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。

※未読のショートメッセージには「☑」、既読のショートメッセージには「✉」を表示します。

2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻、ショートメッセージの内容が表示されます。



• **ツマミ**を回すと、表示をスクロールできます。



◇音声着歴

通信方式が「B54」に設定されている無線機から音声通信を1件以上受信したとき、相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻を表示します。

※音声着歴は、20件まで記憶できます。

20件を超えると、古い着信履歴から消去されます。

※電源を切っても、着信履歴は消去されません。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機から受信したとき、およびアナログ通信で使用する通話チャンネルで受信したときは、着信履歴を記憶しません。

※音声を受信したとき、GPSユニット(別売品:UX-249)を接続していなかった場合、または接続していてもGPS衛星からの信号を受信(測位)できなかった場合は、受信時刻は表示されません。

【表示のしかた】

1. 音声着歴一覧画面で、**ツマミ**を回して表示する着信履歴を選択し、**ツマミ**を押します。



※呼出種別に関わらず、音声着歴一覧画面には相手局の個別番号が表示されます。

2. 相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻が表示されます。



【音声着歴を利用して、呼び出しをするには】

相手局の個別番号、呼出種別、受信時刻を表示した状態で【PTT】(送信)スイッチを押すと、表示している相手局に音声を送信できます。

※アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択して音声着歴を表示した場合は、音声着歴を利用して呼び出しはできません。

6 メニュー画面について

■ 項目について(つづき)

ユーザーコード



選択した通話チャンネルのユーザーコードを一時的に変更します。

◇受信 UC

選択した通話チャンネルの受信ユーザーコード(UC)を一時的に変更します。



- 選択範囲:OFF、01～63
- ※使用できるユーザーコードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

◇送信 UC

選択した通話チャンネルの送信ユーザーコードを一時的に変更します。



- 選択範囲:OFF、01～63
- ※使用できるユーザーコードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。

◇送受信UC

選択した通話チャンネルの受信ユーザーコードと送信ユーザーコードを一時的に変更します。



- 選択範囲:OFF、01～63
- ※使用できるユーザーコードの設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※送信と受信で異なるユーザーコードを設定している場合は、受信ユーザーコードが表示されます。

秘話



秘話機能を使用すると、ほかの相手局に通話内容が傍受されるのを防止できます。

選択した通話チャンネルの鍵番号を一時的に変更します。

- 選択範囲:OFF、01～63
- ※使用できる鍵番号の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※選択した通話チャンネルに設定されている周波数チャンネル、ユーザーコード、鍵番号が一致した相手局と通話できます。
- ※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に防止できませんので、ご注意ください。

送信出力



選択されている通話チャンネルの送信出力を一時的に変更します。

- LOW :ローパワーに設定する
※**L**が点灯します。
- HIGH :ハイパワーに設定する
※**H**が点灯します。
- ※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。
- ※選択した通話チャンネルが受信専用の場合は、**R**が点灯し、送信出力の切替はできません。

6 メニュー画面について

■ 項目について(つづき)

スキャン



スキャン機能を使用すると、周波数チャンネルを自動で切り替えて、使用中の周波数チャンネルを探し出せます。スキャン機能を開始/停止します。

- 停止 : スキャンを停止する
- 開始 : スキャンを開始する

※設定が必要ですので、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、スキャンを解除します。

- ◎スキャン中は、「Z」が点灯します。
- ◎着信したときは、スキャンを一時停止し、設定にしたがって再開します。
- ◎スキャン中に[PTT](送信)スイッチを押した場合、通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルで送信します。
- ◎スキャン中は、選択呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

マイクゲイン

(初期設定値: 0dB)



マイクの感度を設定します。(単位: dB)

- 選択範囲: -15(低)~0(中)~9(高) 3dB刻み

※[P](プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

※周囲の騒音が大きい場所の場合

低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

※周囲の雑音が小さい場所の場合

高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

表示設定



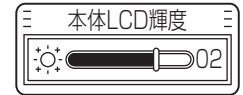
表示部と各スイッチの照明の明るさを設定します。

◇本体LCD輝度 (初期設定値: 2)

無線機本体の表示部と各スイッチの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1(暗)~3(明)

※[P](プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。



ノイズスケルチ



受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、ノイズスケルチレベルを設定します。

- 選択範囲: 0(オープン)、1(浅い)~64(深い)

※[P](プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

※設定値が小さい(浅い)ときは弱い信号でも受信できますが、設定値が大きい(深い)ときは強い信号だけを受信します。

ご参考

ノイズスケルチレベルは、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により出荷時の値が異なります。

7 そのほかの機能について

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択し、受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎デジタル通信で使用する通話チャンネルを選択し、ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

※秘話機能を使用している他局の信号を受信した場合は、秘話処理された電子音だけが聞こえます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

モニター機能を設定したスイッチを押します。

押ししているあいだ動作するか、押しごとに動作を切り替えるかは、設定によって異なります。

■ キーロック機能

不用意に無線機のスイッチやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**【機能/ON/OFF】**スイッチを長く(約1秒)押します。

・「キーロック」が表示されます。

※同じ操作をすると、解除できます。

【キーロック中にできる操作】

◎キーロック機能の解除

◎送信/受信

◎モニター機能の「ON」/「OFF」

◎緊急呼び出し

◎設定モードの移行

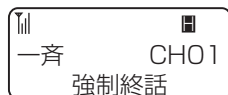
◎電源の「入」/「切」と音量調整*

★設定モードの「キーロック時動作」(P.8-2)を「全キーロック」に設定した場合、キーロック中に音量調整はできません。

■ 強制終話機能

着信中に[P](プログラム)スイッチを長く(約1秒)押しすると、通話を強制的に終了します。

※強制終話した場合、**【受信】**ランプと**【送・受】**ランプが緑色に点灯したまま、右の画面を表示します。



■ T102方式受信機能

通信方式が「B54」に設定されている無線機で、通信方式が「T102」に設定されている無線機から受信できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ スキャン機能

スキャン機能を使用すると、周波数チャンネルを自動で切り替えて、使用中の周波数チャンネルを探し出せます。メニュー画面から、開始/停止します。(P.6-6)

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 呼び出し音機能

呼び出しを受けたとき、着信をビープ音、またはメロディー音で通知する機能です。

※呼び出し音の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※相手局からユーザーコードによる呼び出し、一斉呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたときは、鳴りません。

■ 呼び出しメロディー機能

呼び出し音機能を設定したときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

※メロディー音の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 最小音量設定機能

音量の最小値を制限することで、不用意に無線機のツマミを回したとき、受信音やビープ音が出なくなるのを防止できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ マイクハンガー機能

マイクハンガー機能を使用すると、マイクロホンにマイクハンガーにかけたときに、下記のいずれかの動作をします。

◎マイクロホンをマイクハンガーにかけているあいだ、スキャンする

◎マイクロホンをマイクハンガーにかけているあいだ、スケルチを閉じる

◎マイクロホンをハンガーにかけた状態で調整した音量と、はずした状態で調整した音量がそれぞれ設定される

◎マイクロホンをハンガーにかけると、強制的に終話する

※マイクハンガー機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

マイクハンガー機能を使用する場合、マイクハンガーをアース(車体の金属部分)に接地してください。

7 そのほかの機能について

■ GPSデータ通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

GPSユニット(別売品:UX-249)を接続しているとき、位置情報と自局番号を送信できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、GPSデータ通信はできません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、GPSデータを送信できません。(P.3-1)

※送信できる位置情報は緯度、経度、高度です。

※送信中は[送信]ランプと[送・受]ランプが赤色に点灯し、他局からGPSデータを受信中は、[受信]ランプと[送・受]ランプが緑色に点灯します。

※無線機からは、位置情報を確認できません。

位置情報を受信すると、無線機に接続されたデータ端末装置などの機器に受信した位置情報を出力します。

■ ステータス通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

ステータスを送信します。

ステータスには、全角12文字(半角24文字)以内の内容が、あらかじめ登録されています。

◎ステータスの送信については、6-2ページをご覧ください。

◎送信するステータスは、最大207件登録できます。

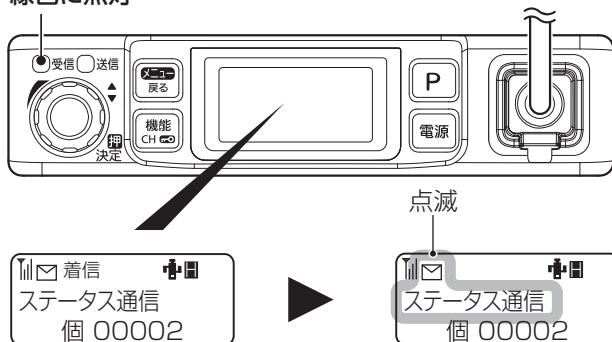
※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、ステータスを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、ステータスを送信できません。(P.3-1)

【受信中の表示】

緑色に点灯



◎ステータスを受信してから通常画面になるまでのあいだにツマミを押すと、受信したステータスが既読になり、内容を確認できます。

◎受信したステータスの確認はメニュー画面でもできます。(P.6-3)

■ ショートメッセージ通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

あらかじめ登録された全角50文字(半角100文字)以内のショートメッセージを送信します。

◎ショートメッセージの送信については、6-3ページをご覧ください。

◎送信するショートメッセージは、最大10件登録できます。

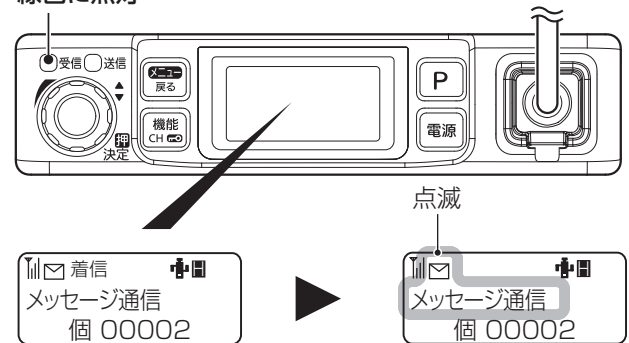
※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、ショートメッセージを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、ショートメッセージを送信できません。(P.3-1)

【受信中の表示】

緑色に点灯



◎ショートメッセージを受信してから通常画面になるまでのあいだにツマミを押すと、受信したショートメッセージが既読になり、内容を確認できます。

◎受信したショートメッセージの確認はメニュー画面でもできます。(P.6-4)

7 そのほかの機能について

■ ベアラモード通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

データ端末装置などの機器を外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピンコネクター)に接続することで、テキストなどの非音声データの伝達ができます。

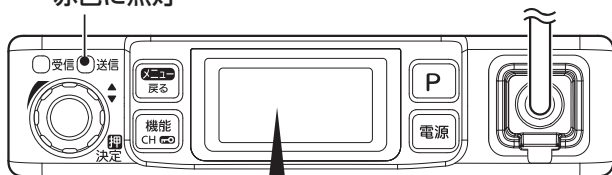
※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、非音声データを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、非音声データを送信できません。(P.3-1)

【送信中の表示】

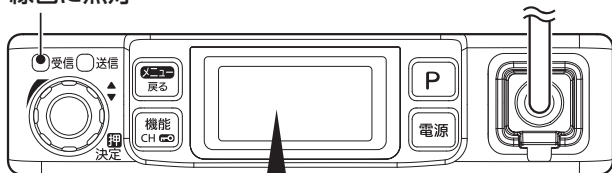
赤色に点灯



↑ 送信
一斉
ベアラ通信

【受信中の表示】

緑色に点灯



点滅
↑ 着信
ベアラ通信
個 00002

■ ロングデータモード通信

ARIB STD-B54方式で使用できる通信です。

データ端末装置などの機器を外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピンコネクター)に接続することで、ロングメッセージの伝達ができます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※通信方式が「T102」に設定されている無線機は、ロングメッセージを送受信できません。

※選択している通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルとユーザーコードが異なる相手へ、ロングメッセージを送信できません。(P.3-1)

【送信中の表示】

赤色に点灯

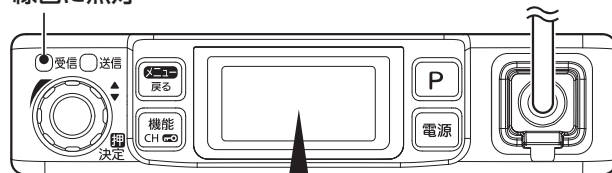


↑ 送信
一斉
ロングメッセージ通信

↑ 送信
一斉
送信完了

【受信中の表示】

緑色に点灯



点滅
↑ 着信
メッセージ通信
個 00002

表示される項目は、お買い上げ時の設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定項目一覧

下記の項目が表示されます。

設定名	設定項目名	初期値	参照
操作設定	キーロック時動作	音量のみ可	P.8-2
喚起音設定	キー操作音	ON	P.8-2
	送信モニタービープ	OFF	P.8-2
	終話信号受信音	OFF	P.8-3
表示設定	バックライト動作	常時点灯	P.8-3
	本体LCDコントラスト	12	P.8-3
	文字サイズ	標準	P.8-3
オプション設定	外部SP接続動作	自動	P.8-3

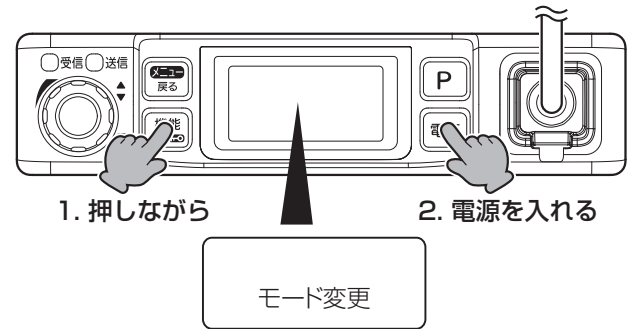
※ 初期値とは、工場出荷時の設定を意味します。

■ 設定モードに移行するには

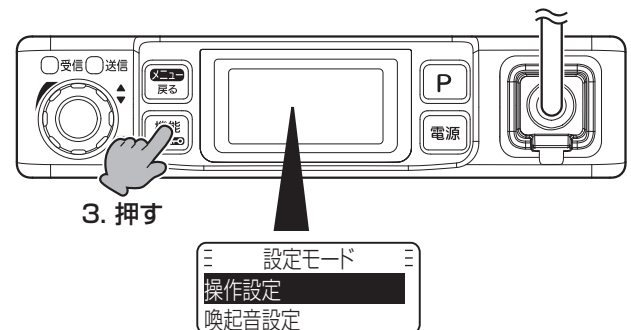
設定モードを解除するまで、送信や受信ができません。

【操作のしかた】

1. 本製品の電源を切ります。
2. 【機能/電源】スイッチを押しながら、【電源】スイッチを押しつづけます。



3. 「モード変更」と表示されて「ピッ」と鳴ったら、すべてのスイッチから手をはなして、1秒以内に【機能/電源】スイッチを短く押します。
 - ビープ音が「ピピッ」と鳴ったあと、「設定モード」と設定項目が表示されていれば、設定モードに移行しています。

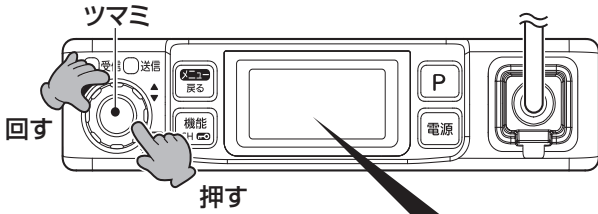


8 設定モード

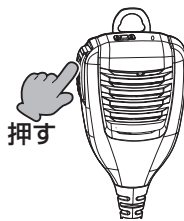
■ 設定のしかた

設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

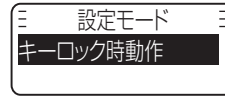


1. ツマミを回して、設定したい項目を選択します。
 2. ツマミを押します。
 3. 手順1と手順2を繰り返して、設定する項目を選択します。
 4. ツマミを回して、設定値を選択します。
 5. ツマミを押します。
 6. [PTT] (送信) スイッチを押します。
 - 選択した設定値を確認し、設定モードが解除されます。
- ※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

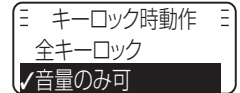


■ 設定項目について

操作設定



◇キーロック時動作 (初期設定値: 音量のみ可)
キーロック機能を「ON」にしたときの音量調整について設定します。



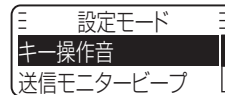
- 全キーロック : 【キーロック中にできる操作】を除くすべての操作を無効にする
- 音量のみ可 : キーロック中にできる操作として、音量調整も有効にする

※ [P] (プログラム) スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

【キーロック中にできる操作】

- ◎ キーロック機能の解除
- ◎ 送信/受信
- ◎ モニター機能の「ON」/「OFF」
- ◎ 緊急呼び出し
- ◎ 設定モードの移行
- ◎ 電源の「入」/「切」

喚起音設定



◇キー操作音 (初期設定値: ON)
スイッチ、および無線機本体のツマミの操作音について設定します。



- OFF : 操作音を鳴らさない
- ON : 操作音を鳴らす

※ [P] (プログラム) スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

◇送信モニタービーブ (初期設定値: OFF)

送信したとき、送信側の無線機が通話できる状態であることを知らせるビーブ音について設定します。




- OFF : ビーブ音を鳴らさない
- ON : ビーブ音を「ピッ」と鳴らす

※ [P] (プログラム) スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

8 設定モード

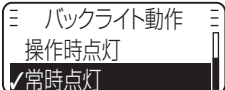
■ 設定項目について


喚起音設定(つづき)


- ◇終話信号受信音 (初期設定値:OFF)
相手局が終話したことを通知する
ビープ音について設定します。
- 
- OFF :ビープ音を鳴らさない
 - ON :ビープ音を「ピッ」と鳴らす
- ※ [P] (プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

表示設定




- ◇バックライト動作 (初期設定値:常時点灯)
表示部と各スイッチのバックライトの点灯タイミングについて設定します。
- 
- 常時消灯 :点灯しない
 - 操作時点灯 :送信以外の操作をすると、照明が約5秒間点灯する
 - 常時点灯 :電源を切るまで消灯しない
- ※ [P] (プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

- ◇本体LCDコントラスト (初期設定値:12)
表示部のコントラスト(濃淡)を設定します。
- 
- 選択範囲:1(淡)~ 25(濃)
- ※ [P] (プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

- ◇文字サイズ (初期設定値:標準)
通話チャンネル表示の文字サイズを設定します。
- 
- 選択範囲:標準、大
- ※ [P] (プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。
- ※「大」に設定したとき表示できる文字数は最大で全角4文字(半角8文字)です。

オプション設定



- ◇外部SP接続動作 (初期設定値:自動)
外部スピーカー接続時、マイクロホン(HM-223、HM-224)のスピーカー動作を設定します。
- 
- 自動 :外部スピーカーを接続すると、マイクロホンのスピーカーが無効になる
 - マイクSP+外部SP :外部スピーカーとマイクロホンのスピーカーが両方有効になる
 - マイクSP :外部スピーカーを接続しても、無線機に接続したマイクロホンのスピーカーだけが有効になる
- ※ [P] (プログラム)スイッチを押すと、工場出荷時の設定に戻ります。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ UX-249(GPSユニット)使用時の注意事項

GPS(Global Positioning System)は、米国が開発、および運用管理をしています。

同国の政策上、予告なしに測位精度の悪化、GPS衛星の調整、試験、および軌道修正などで、いくつかの衛星信号が発信停止する場合や、メンテナンスなどで衛星から異常電波が発信される場合があります。このような場合、誤作動したり、測位精度が著しく悪化したりする場合があります。

下記の注意事項を十分配慮して、GPSをお使いください。

◎測位精度に関する注意事項

受信衛星の配置や電磁障害、受信信号のマルチパスなどの影響により、測位精度が著しく悪化した状態(位置飛びなど)が発生する場合がありますので、ご注意ください。

◎装備に関する注意事項

本製品は、ノイズを発生する回路や機器からなるべくはなしてください。

GPS信号の周波数帯(1.575GHz付近)や、その整数分の1となる周波数の高調波が、受信や測位に影響を与える場合があります。

◎設置に関する注意事項

車載の各種電子機器(地上デジタルチューナー、カーナビ、ETCなどのアンテナ、レーダー探知機など)の近くに取り付けると、お互いの動作に影響が出ることがありますので、はなして設置してください。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。

上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

外部スピーカー

SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
※ケーブル長:約2.8m

SP-35 :外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約2m

外部電源

PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

マイクロホン関係

SM-28 :デスクトップマイクロホン

HM-223★ :防水スピーカーマイクロホン
※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-223の防塵/防水性能を維持できません。

HM-224★ :防水コマンドマイク
※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-224の防塵/防水性能を維持できません。

OPC-2355 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
※SM-28、HM-223、HM-224のいずれかでお使いになれます。
※最大2本まで接続してお使いになれます。

その他

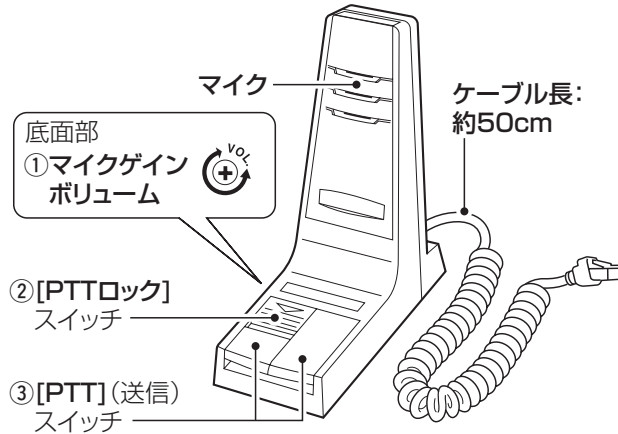
UX-249 :GPSユニット
※ケーブル長:約5m

9 別売品とその使いかた

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。



① マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック] スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信) スイッチ(③)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信) スイッチ

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

10 保守について

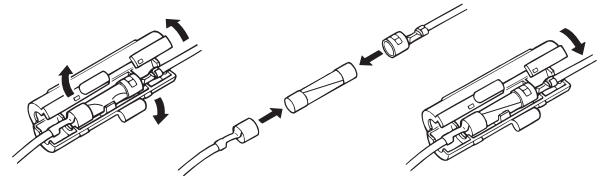
■ 日常の保守と点検について

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミを回して、表示される音量レベルを確認してください。
- ◎ご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを確認してください。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

- ◎無線機に使用するヒューズ : 125V/5A
- ※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。
- ※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。



■ 従来製品との相互使用について

(2016年3月現在)

従来製品と相互に使用するときは、下記の弊社製無線機をお使いください。

【IC-DV6010S1】

- IC-DV60S1
- IC-VH37MFT*
- IC-VH45MFT*
- IC-VM4525MFT*

【IC-DU6010S1】

- IC-DU60S1
- IC-UH37MFT*

- ★アナログ通信で使用する通話チャンネルを選択しているときだけ、相互に使用できます。

ご注意

★印がついている製品の個別呼び出し機能、CDCSS(連続デジタルコードスケルチシステム)機能には対応していません。

10 保守について

■ 故障かな?と思ったら

故障と思われるときは、下表にしたがって点検、確認してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.10-3)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.10-1
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.2-1
	スピーカー出力の設定が正しくない	設定モードで、スピーカー出力の設定を確認する	P.8-3
	マイクロホン(HM-223、HM-224)、または外部スピーカー端子の接触不良、または接続されていない	マイクロホン(HM-223、HM-224)、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.2-2
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-2
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の鍵番号の設定が異なる	相手の秘話機能と鍵番号を確認する	P.6-5
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	個別番号、またはグループ番号を確認する	P.4-3
相手から応答がない	周囲の状況により、受信しにくくなっている	場所を移動してから通話してみる	P.2-4
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
「キーロック」と表示される	キーロック機能が動作している	キーロック機能を解除する	P.7-1
「端末ロック」と表示される	パスワードを再入力した回数が、再入力可能回数を超えた	「端末ロック」の表示を解除するには、お買い上げの販売店にご依頼ください	P.2-1
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

10 保守について

■ アフターサービスについて

本製品は厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されておりますが、万一故障が生じたときは、弊社サポートセンターまで、その現象をできるだけ具体的にご連絡ください。

修理を依頼されるとき

「■ 故障かな? と思ったら」(P.10-2)にしたがって調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)


受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

さくいん

A		き		そ	
ACC連動ケーブル ……………	1-3	キー操作音……………	8-2	操作設定……………	8-2
D		キーロック		送受信ユーザーコード……………	6-5
DC電源ケーブル ……………	1-3	キーロック機能……………	7-1	[送・受]ランプ ……………	1-1
G		キーロック時動作……………	8-2	送信出力……………	6-5
GPSデータ通信 ……………	7-2	[機能/ ]スイッチ ……………	1-1	送信モニタービープ……………	8-2
I		強制終話機能……………	7-1	送信ユーザーコード……………	6-5
IP表記について ……………	ii	緊急呼び出し機能……………	5-1	[送信]ランプ……………	1-1
P		く		ち	
[PO]スイッチ ……………	1-1	グループ呼び出し……………	4-1、6-2	着信中の送信制限機能……………	2-4
[PTT](送信)スイッチ……………	1-1	け		つ	
[P](プログラム)スイッチ ……	1-1	減電圧表示……………	1-3	通話するときのアドバイス……………	2-4
T		こ		通話する場所について……………	2-4
T102方式受信機能……………	7-1	後面部……………	1-3	通話チャンネルを合わせる 2-2、3-1	2-2、3-1
あ		故障かな?と思ったら ……	10-2	通話のしかた……………	2-1
アフターサービス……………	10-3	個別呼び出し……………	4-1、6-2	ツマミ……………	1-1
アンテナコネクタ……………	1-3	コントラスト……………	8-3	て	
い		さ		デスクトップマイクロホン……………	9-2
一斉呼び出し……………	4-1、6-2	最小音量設定機能……………	7-1	[電源]スイッチ……………	1-1
え		し		電源を入れる……………	2-1
エマージェンシー……………	5-1	終話信号受信音……………	8-3	の	
お		受信ユーザーコード……………	6-5	ノイズスケルチ……………	6-6
お問い合わせ先……………	10-3	[受信]ランプ……………	1-1	は	
オプション設定……………	8-3	ショートメッセージ着歴……………	6-4	ハイパワー……………	6-5
音声宛先……………	6-2	ショートメッセージ通信 6-3、7-2		パスワード機能……………	2-1
音声着歴……………	6-4	す		バックライト動作……………	8-3
音量を調整する……………	2-1	スキャン……………	6-6、7-1	ひ	
か		ステータス着歴……………	6-3	ヒューズの交換……………	10-1
外部SP接続動作……………	8-3	ステータス通信……………	6-2、7-2	表示設定……………	6-6、8-3
外部機器接続ケーブル		せ		表示部……………	1-2
D-sub 9ピンコネクタ……………	1-3	設定モード……………	8-1	秘話機能……………	6-5
Mini-DIN 9ピンコネクタ ……	1-3	設定モードに移行するには……………	8-1	へ	
外部スピーカー……………	9-1	選択呼び出しによる通話……………	4-1	ベアラモード通信……………	7-3
外部スピーカージャック……………	1-3	選択呼び出しの種類……………	4-1	別売品……………	9-1
外部電源……………	9-1	選択呼び出しの種類を		別売品一覧表……………	9-1
過電圧表示……………	1-3	変更するには……………	4-3	ほ	
喚起音設定……………	8-2			本体LCD輝度 ……………	6-6
				本体LCDコントラスト ……	8-3

さくいん

ま

マイク感度の調整	6-6
マイクゲイン	6-6
マイクの使いかた	2-4
マイクハンガー機能	7-1
マイクロホン関係	9-1

め

メッセージ通信	6-2
メニュー画面について	6-1
[メニュー/戻る]スイッチ	1-1

も

文字サイズ	8-3
モニター機能	7-1

ゆ

ユーザーコード	3-1、6-5
ユーザーコードによる	
グループ通話のしかた	3-1
ユーザーコードによる呼び出し	6-2
ユーザーコードの設定について	3-1
ユーザーコードを変更するには	3-2

よ

呼び出し音機能	7-1
呼び出しメロディー機能	7-1
呼び出しを受ける	2-3、3-1
呼び出しをする	2-2、3-1

り

履歴	6-3
----	-----

ろ

ローパワー	6-5
ロングデータモード通信	7-3

高品質がテーマです。

